

漢字かな交じり文を書く(4)

締切り 四月二十四日(必着)

君よ
自信をもつて歩むがよい

踏みしめる足の下に
自分の道をつくって
ゆく限り

決して
道を見失うことはない

ふいのだけし



奥村憲照先生書

◎書道のジャンルには、大別して「漢字」「かな」「漢字かな交じり文」の三つがあります。

◎「漢字かな交じり文」は、実用書としてはあたり前のことですが、芸術書としては比較的新しい分野で、近代詩文書とか調和体と呼ばれています。団体によっては、新和様とか新書芸という呼称もあります。

◎今月のお手本は、自由な構成で、より詩の心が豊かに伝わってきます。皆さんもそれぞれに表現してみてください。

◎誰にでも読めて、言葉の感動をストレートに表現できる「漢字かな交じり文」の世界をお楽しみ下さい。

※落款(氏名)も作品の一部として、作品の最後に書き入れて下さい。(雅印だけでもよい)

作品の出し方

▼硬筆部 B5判(二五七mm×一八二mm)以下の紙に書いて下さい。用具は自由です。(黒色に限る)

▼毛筆部 半紙に書いて下さい。筆ペンも可です。

▼出品制限の対象とはしませんが、出品は硬・毛のどちらか一方に限ります。

▼事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・硬筆規定の成績(毛筆の場合は毛筆漢字の成績)を、作品余白にお書き下さい。

▼優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。

準初段から六段まで

新入から1級まで

〔解説〕

角度に注意

言

決

慮

思

考

示

○印の間隙注意

書法では「楷書は立つが如し」といって、人の立っている姿にたとえられる均勢のとれた姿勢を言う

▶教範・書範は右課題を「行草または草書」で、師範は「行書」で出書して下さい。

多言は決して
思慮ある考えを
示すものにあらず

おか だ りゅう ほう 書
岡 田 龍 芳 書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会段位用紙

〔解説〕

大

発

見

終

着

駅

あ	終	大
り	着	発
ま	駅	見
せ	で	は
ん	は	

おお たに せい じょう 書
大 谷 清 城 書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会級位用紙

★大発見：（書体Ⅱ行書）

トムソン（一八八〇～一九四〇）

イギリスの物理学者

トムソンは、一九〇六年度のノーベル物理学賞の受賞者。トムソンの電子の発見は、物理学上の大発見でしたが、そこからさらに未知のものの解明にと研究は進んでいきました。彼の大発見は終着駅どころか、新たな始発駅だったのです。

◆5月課題予告（楷書）

高嶺の花を
羨むより
足元の豆を拾え

★多言は：（書体Ⅱ楷書）

タールス（前六世紀ころ）

古代ギリシアの哲学者

タールスは古代ギリシア七賢人の一人。万物の根源を追求し哲学の祖と仰がれ、天文学や数学にも優れ、政治や戦争でも活躍しました。

孔子の「巧言令色鮮し仁」（ことばを巧みに操り、表情をよくして飾る者には仁はほとんどない）を想起させる内容です。

◆5月課題予告（行草または草書）

他人の悪を

能く見る者は

己が悪これを見ず

▼教範・書範Ⅱ行書

▼師範Ⅱ楷書

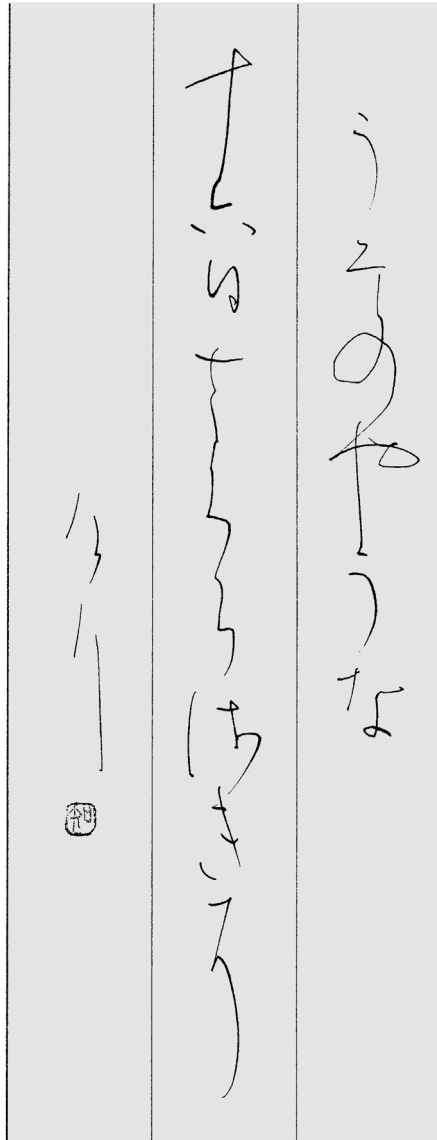
一般部かな課題

締切り 4月24日(必着)

準初段から六段まで

新入から1級まで

うそのやうな十六日桜咲きにけり^{さくら 佐耳介}

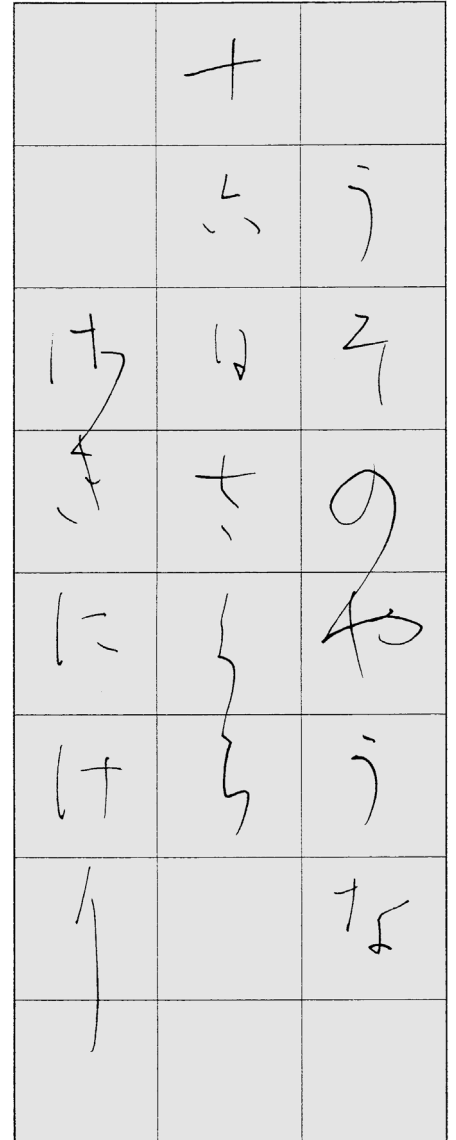


こ だま ち せん 書
児 玉 知 泉

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

うそのやうな十六日桜咲きにけり^{さくら 佐耳介}



こ だま ち せん 書
児 玉 知 泉

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

本号より左記のとおり手本執筆担当
が交代となりました。

○硬筆かな 児玉 知泉
○条 幅 萩田 蒼仙
○教育部硬筆(小四以上)
須田 一葉

新担当の先生にはよろしくお願
いいたします。

手本執筆担当
交代のお知らせ

介^け 形だけにとられない
佐^さ ち は ち
や や や
一・二とか一・二・三のリズムで

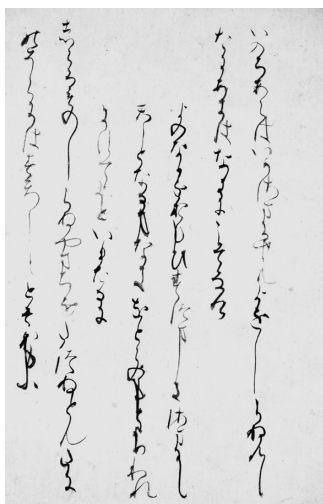
〔解説〕

〔出典〕日本文学全集69 現代句集

うそのやうな
十六日桜咲きにけり^{いざよひさくら}
(正岡子規)

〔古筆参考〕

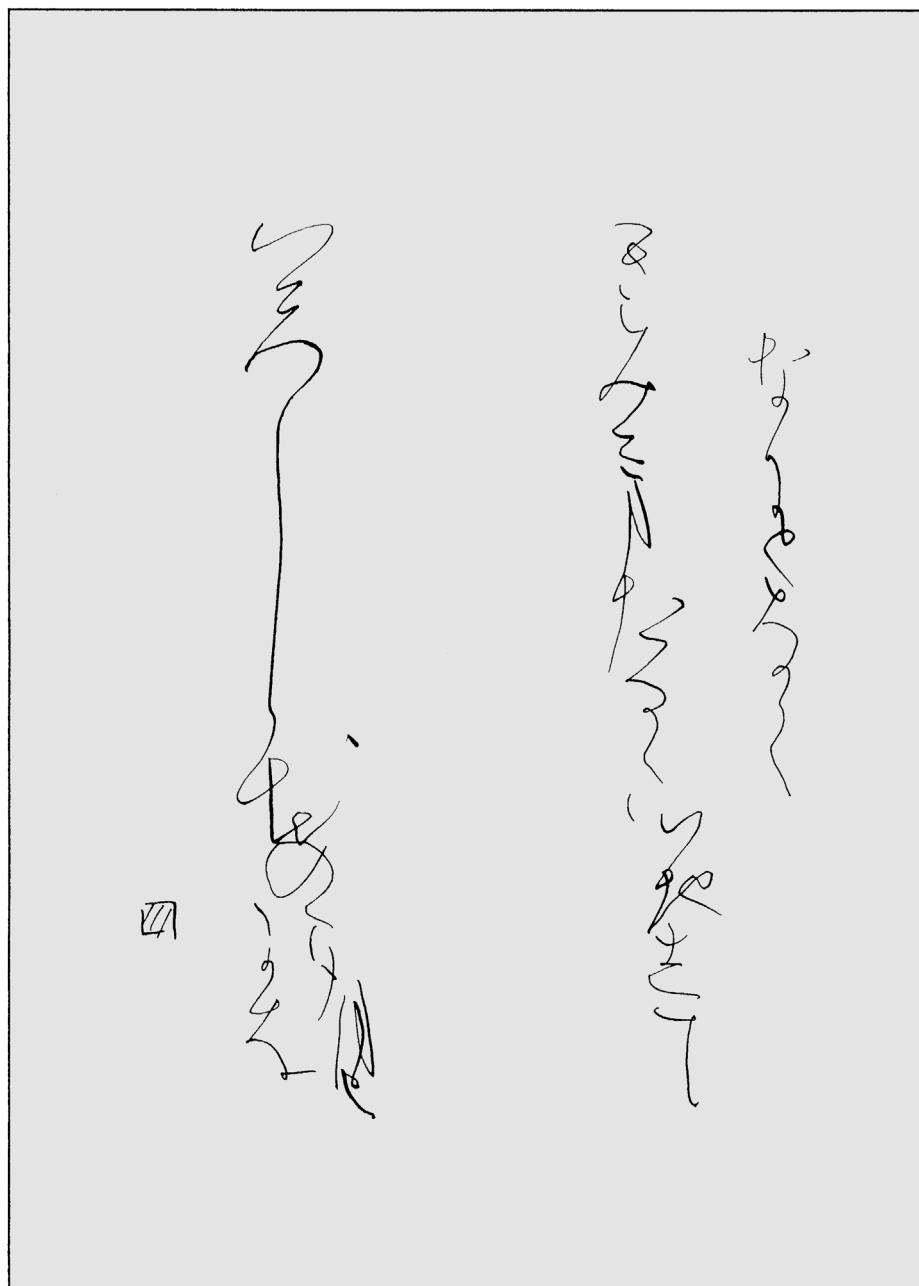
いずみ しき ぶ そくしゅうぎれ
和泉式部続集切



いのちあらばいかにせんとせんよをしらぬむし
可佐万
 だにあきはなきにこそなけ
尔支尔奈介
 よのなかを、おもひすつまじきさまにし
可於お春徒万
 て、ことなる事なきをとこのもとより、われ
天尔須
 にすてよといひたるに
日尔
 志らくものしらぬやまぢをたづぬとまたに
毛万多徒无多尔
 能曾
尔春天於
 のそこにはすてじとぞおもふ

締切り 四月二十四日（必着）

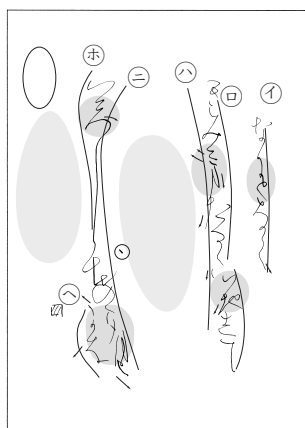
築瀬舟香書



な^尔にとなく君^{きみ}に待^二たるゝ心地^志して
出^いでし花^天野^のゝ夕^夕月^月夜^与かな

〔歌意〕 何だか恋しい人が私を待っているような気がして、夕方の月の美しい頃、私は花の咲き乱れる野にやってきました。

〔出典〕 名歌即訳 与謝野晶子



● 一行の中の密の部分、密の動きに注意。

- ・の方向、○の位置大切。
- ・文字の形だけを見るのではなく線の方向○の位置、運ペンのリズムが大切です。

「和泉式部続集切」の線

「和泉式部続集切・甲類」は鋭い理知的な線で繊細かつ大胆な動きを見せています。上図最終行の「天し」の大きな動きと潤沢な強い線に憧れて使ってみました。

◆5月課題予告

かにかくに皐月は悲しもの思ふ
家の小暗さ外の明るさ

(与謝野晶子)

締切り 4月24日(必着)

幼児の頃から電車が大好きだった
孝太郎が、この春から鉄道会社に
就職しました。運転士希望ですが、
まずは駅員として一から勉強する
ようです。もし駅で見かけた時は
どうぞ声をかけて下さい。

幼児の頃から電車が大好きだった
孝太郎が、この春から鉄道会社に
就職しました。運転士希望ですが、
まずは駅員として一から勉強する
ようです。もし駅で見かけた時は
どうぞ声をかけて下さい。

◎手本は水性ボールペン使用

作品の出し方

- 新人から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
- 用紙Ⅱはがき課題ははがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
- 用具Ⅱはがき、横書き課題ともに自由。(黒色に限る)
- 両課題とも、書体変換は自由です。

横 書 き 課 題

おか じま けい せん
岡 嶋 桂 川 書

兼好法師の徒然草は無常観を
元にした240段程の随筆集です。

島根県松江市 氏 名

※手本は、つけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

一般部毛筆漢字課題

締切り 4月24日（必着）

新入から1級まで（行書）

澤さわ
静雨書せいう

春麗山河壯

〔読み〕 春麗山河壯ん

〔大意〕 山も河もうるわしく春げしまっさかりである。

準初段から師範まで

奥村暢之臨おくむらのぶゆき

致君道於堯舜

〔出典〕 孔子廟堂碑（626～633）〔筆者〕 虞世南（558～638）

〔読み〕 君道くんだうを堯舜ぎょうしんに致いたす。

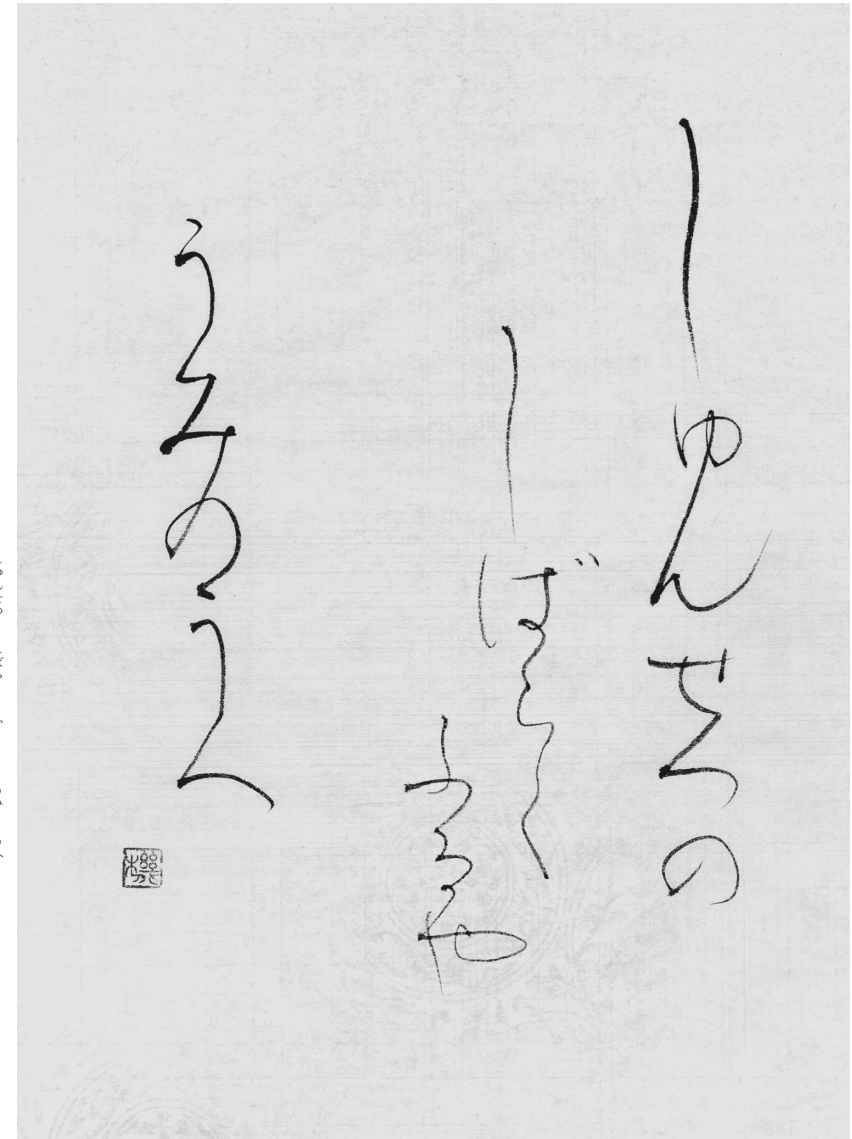
致君道於堯舜

一般部毛筆かな課題

締切り 4月24日（必着）

新入から1級まで

浅井機山先生書

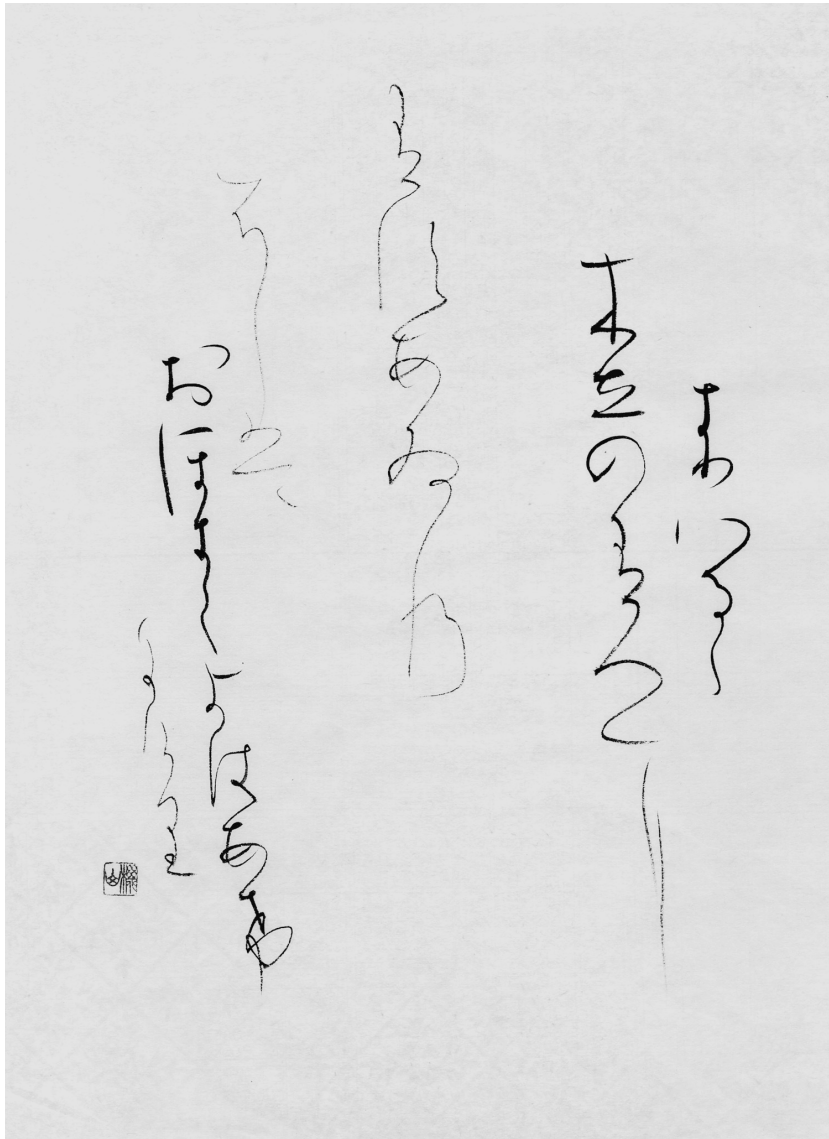


〔出典〕前田普羅

〔句意〕海の上に降る雪の景は何の奇もないが、それでいて人の心をそそるものがある。紺碧の海に降る春雪は美しい。

準初段から師範まで

■ 両課題とも文字の変換、ちらし方は自由です。



〔出典〕古泉千槿

〔歌意〕立ちこめていた霧が晴れあがって、木立の上に薄藍色の富士の姿は雄大にいま夜は明けたのであるよ。

文前ハ
霧はるる、木立のうへに耳有須ある乃
富士は大きく夜はあけにけり
不し盤おは支希爾介里

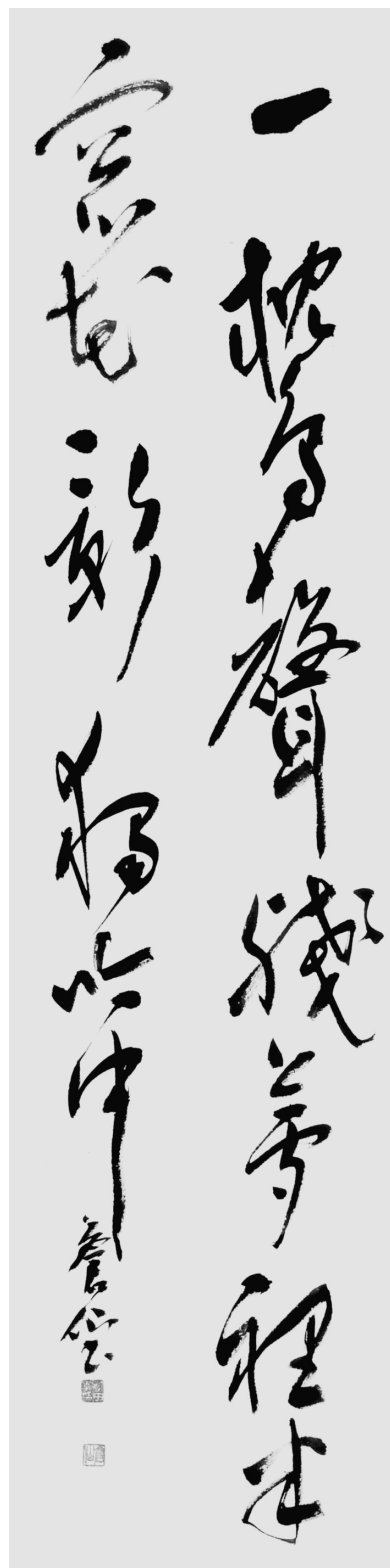
一般部毛筆細字課題

一般部毛筆条幅課題

締切り 四月二十四日(必着)

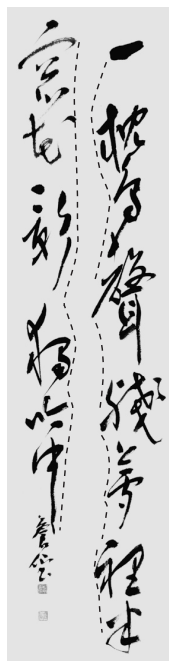
半切(一三六cm×三五cm)

荻田蒼仙書

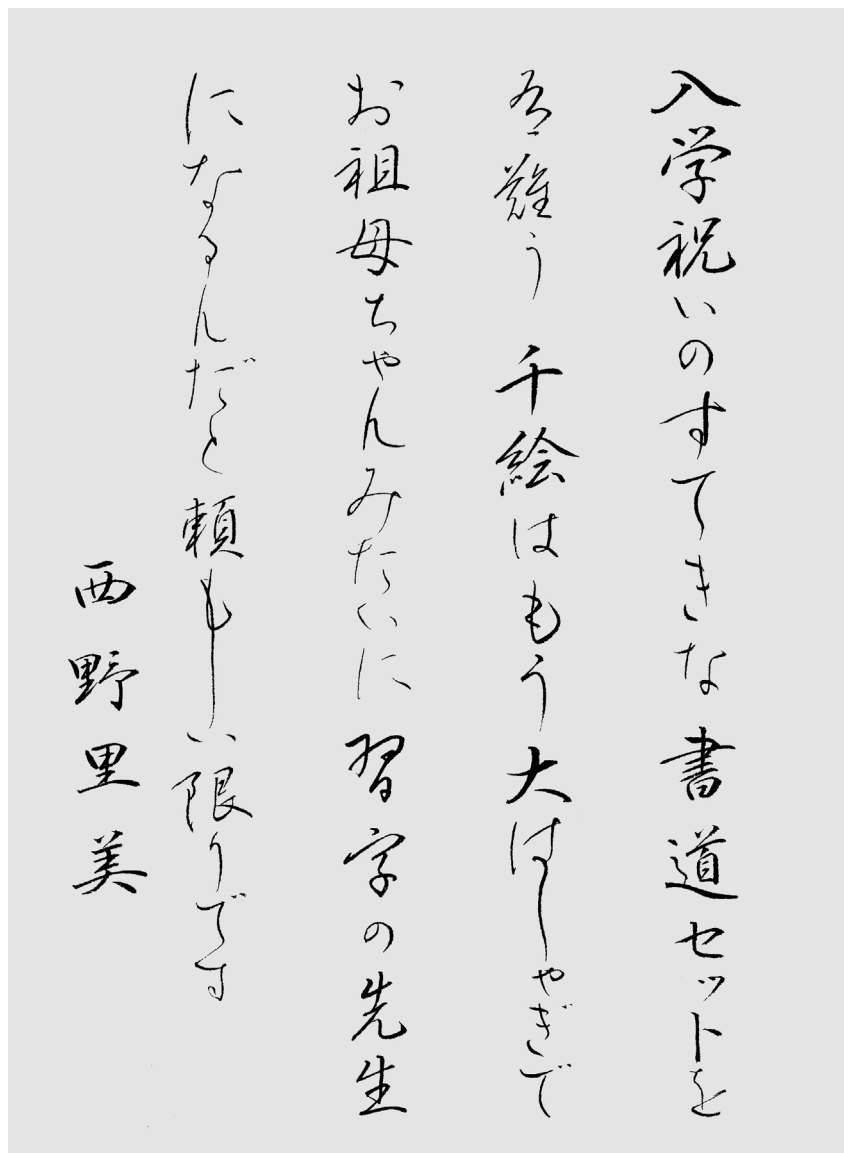


いちんのちようせいさんむのうち
一枕の聲残夢裡
はんそうのかえいどくせんのうち
半窓花影獨吟中
陸游
〔大意〕暁の鳥の声は
夢まだ醒めぬ枕にひび
き、独吟する所には窓
半分に花影がうつって
いる。
初出品の方へ
支部名・会員番号・
姓名・毛筆漢字成績
を、作品左下に必ず
お書き下さい。

〔解説〕墨つぎは一と影に。裡でついでもよろしいが、
一行と二行は対照的である事。即ち隣り合う字は相反
してこそ、存在価値があるのです。



書 兆 春 宮 大



半紙(334mm×240mm)

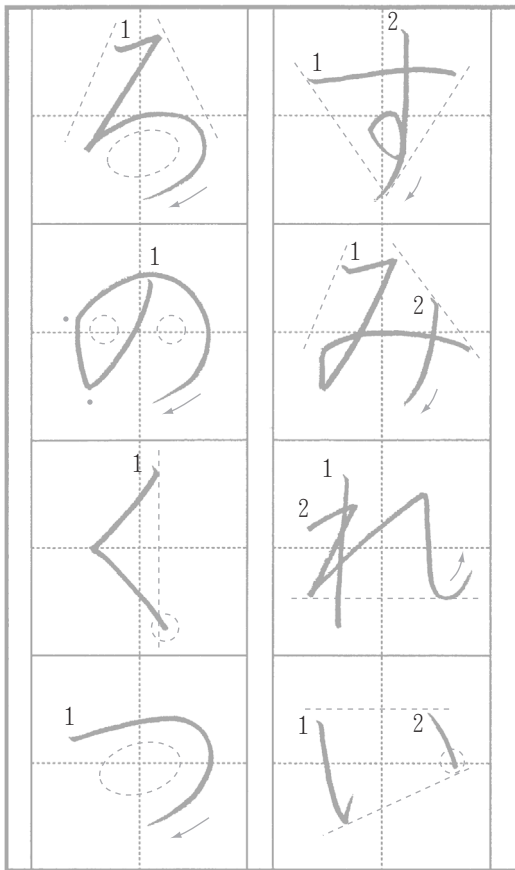
入学祝いのすてきな書道セットを
有難う千絵はもう大はしゃぎで
お祖母ちゃんみたいに習字の先生
になるんだと頼もしい限りです
(ご自分の氏名)

・印で墨つぎしました。

〔条幅・細字作品の出し方〕

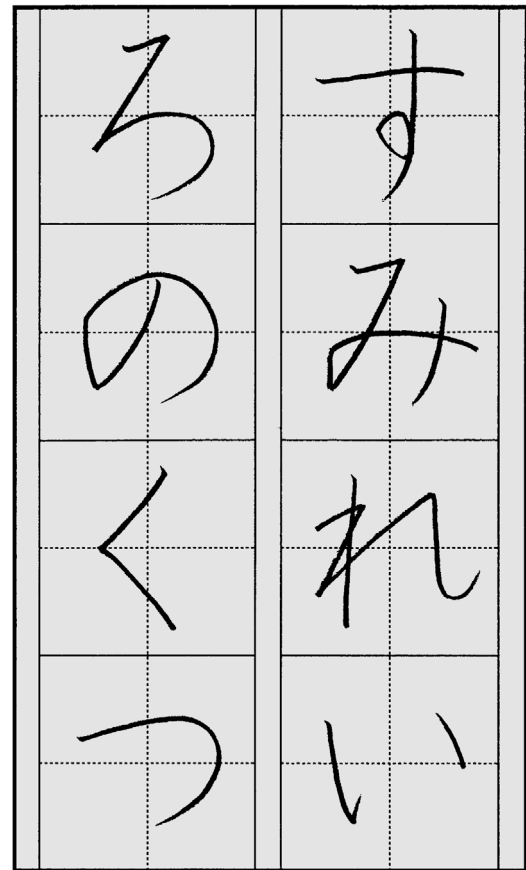
■ 新入から師範まで、どなたでも出書できます。
■ 成績(天位5等)は、評価により毎月変わります。
■ 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

〈ようぐく〉自由(黒色)にかざる



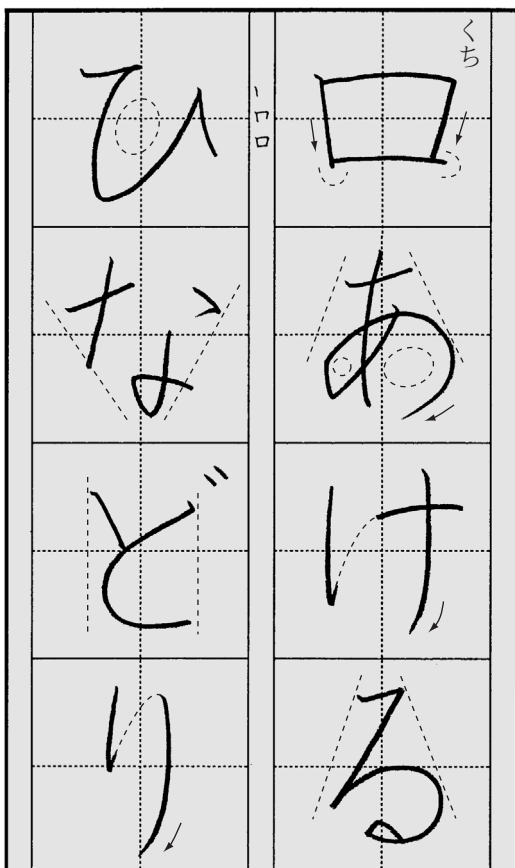
◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)

★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。



よ
う
年

幼年～小三年
三宅容玉書



新入～1級

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。



新
小
一
年

準
初
段
以
上

〈ようぐ〉自由(黒色にかざる)

パ	店	みせ
ン	で	
か	三	サン
う	角	カク

新入1級

を	の	店
五	三	で
つ	角	じ
か	パ	ま
う	ン	ん

準初段以上

新小二年

準初段以上

め	切	きつ
て	手	て
ま	を	
す	集	あつ

新入1級

集	い	花
め	た	の
て	切	絵
ま	手	が
す	を	つ

準初段以上

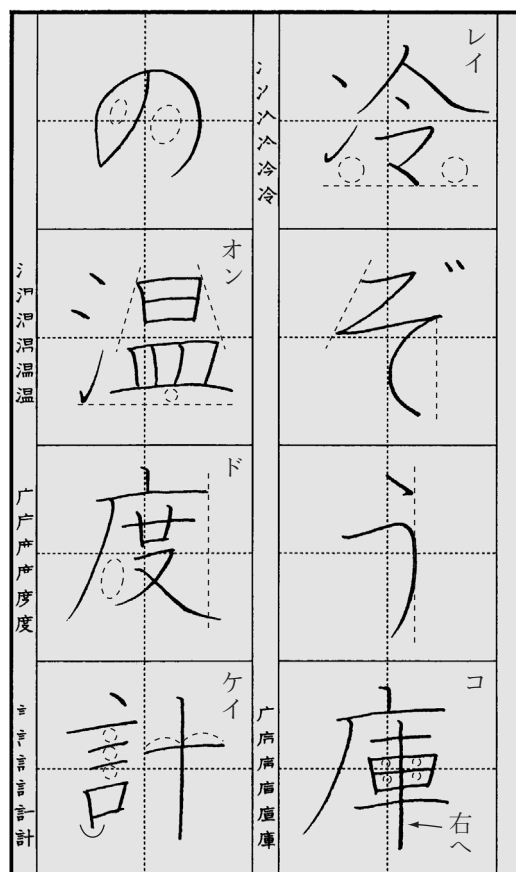
新小三年

準初段以上

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

新小四年

(全員)



新四年生は、左記により、全員この手本どおり8マス用紙で出書してください。

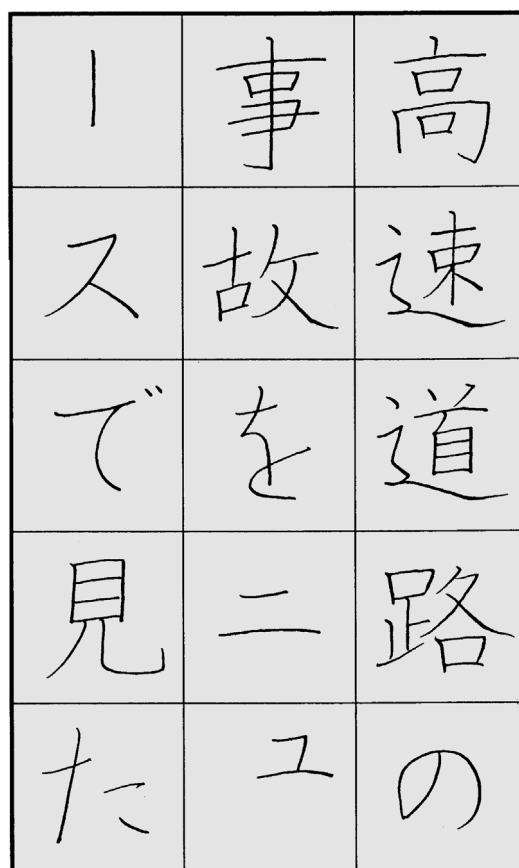
記

- *用具は自由ですがデスクペン、つけペンで書く人は、いじけないよう、のびやかに書く習慣をつけることが第一目的です。
- *六月締切り分までは、この方法が続けます。
- *ペン書きの人は早く慣れるよう、たくさん練習をしましょう。
- *七月締切り分からは、準初段以上は従来どおり15マス用紙を使用してください。

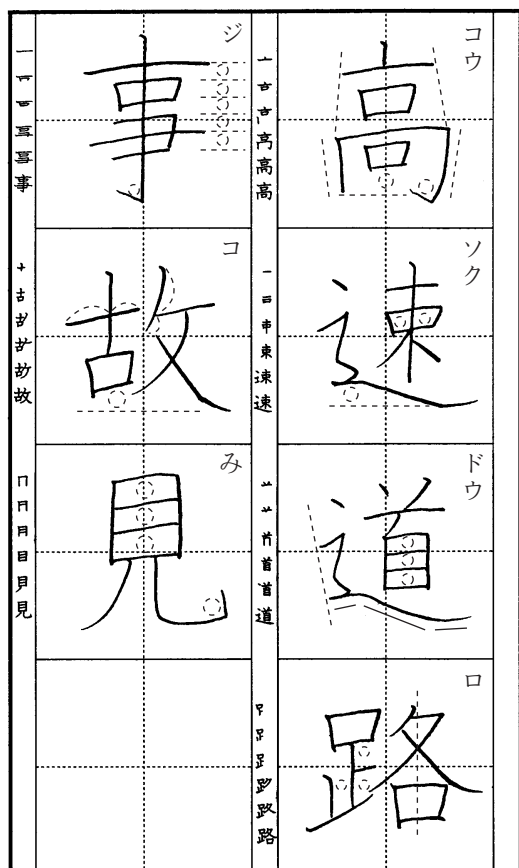
〈用具〉自由(黒色に限る)

新小五年

(全員)



小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。



小四以上 須田一葉書

新小六年

取	師	将
り	の	来
た	資	は
い	格	調
な	を	理

(全員)

解説(よく見て習いましょう)

師	将
資	来
格	調
取	理

〈ようぐ〉自由(黒色に限る)

新中一年(行書)

馬	場	観
に	で	光
乗	初	地
つ	め	の
た	て	牧

新中二・三年(行書)

候	演	駅
補	説	前
者	を	で
た	す	選
ち	る	挙

◎お手本は、つけペンで書きました。



こどぎのひろば



幼年

い	こ	め	す
し	ま	ん	も
け		こ	う
り			

新小三年

一	な	元	毎
二	わ	気	日
三	と	よ	に
	び	く	わ
	し		で
	ま		
	す		

新小六年

競	向	先	用
走	こ	生	意
し	う	の	が
よ	の	合	で
う	橋	図	き
	ま	で	た
	で		ら

新小一年

と	こ	す	か
ま	の	る	く
れ	ゆ	も	れ
	び	の	ん
			ぼ

新小四年

き	一	夏	冬
た	年	は	は
え	中	水	ス
て		泳	ケ
い	体		ー
ま	を		ト
す			

新中一年 (楷書)

特	優	野	来
訓	勝	球	週
中	を	大	行
で	め	会	わ
す	ざ	に	れ
	し	向	る
	て	け	

新小二年

と	空	お	シ
ん	の	い	ャ
で	上	か	ボ
つ	ま	け	ン
た	で	た	だ
		ら	ま

新小五年

気	流	す	練
持	す	き	習
ち	あ	な	は
よ	せ	運	苦
い	は	動	し
		で	い
			が

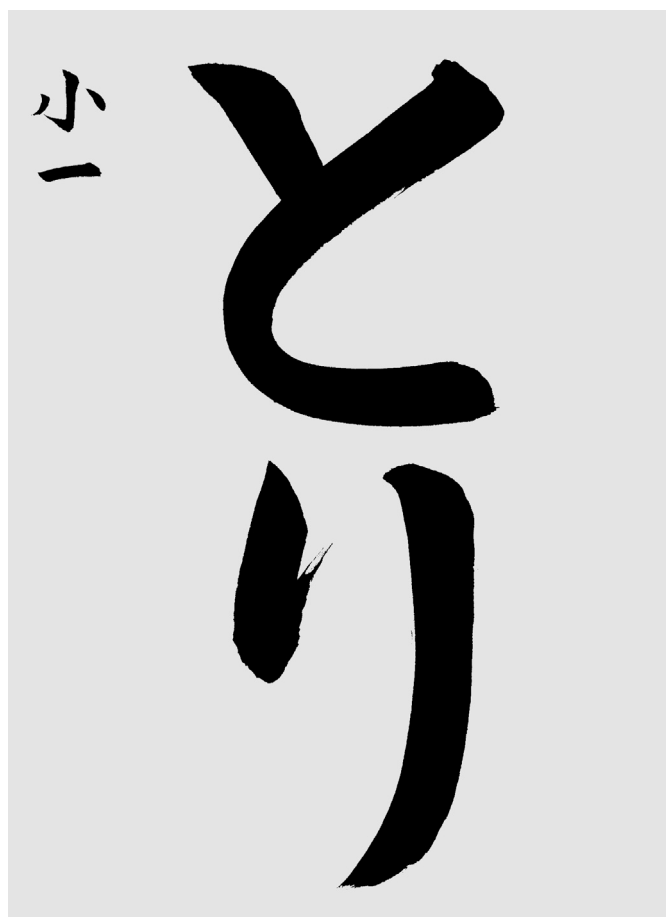
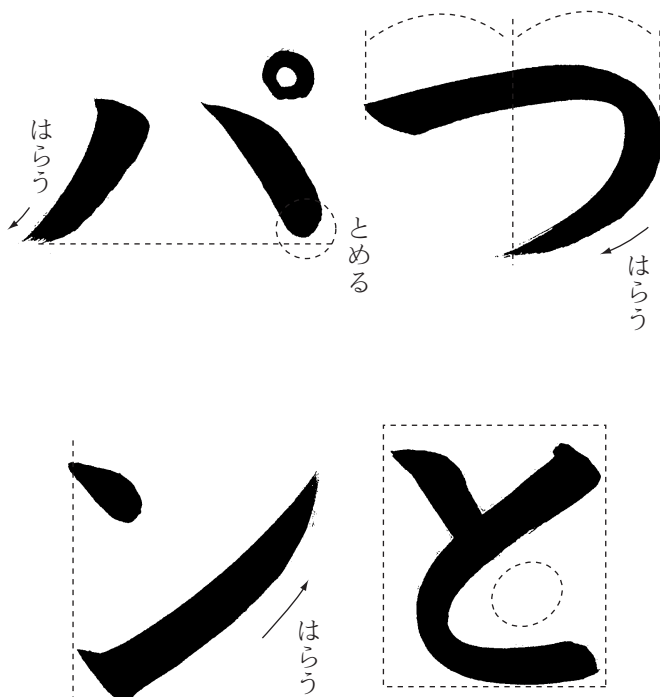
新中二・三年 (行書)

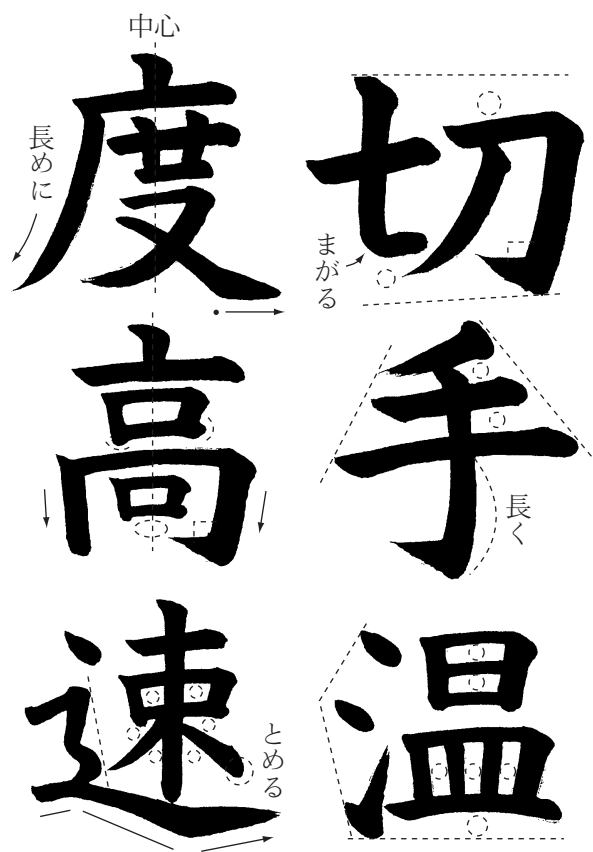
わ	月	胸	体
き	面	の	操
起	宙	す	選
こ	返	く	手
る	り	よ	の
歡	に	う	
声		な	

▼今月は、席書大会開催に合わせて特別に席書課題をひろばの課題とします。本番に向けてサインペンで練習してみましよう。

▼4行用紙のない場合は、いつも通り5行用紙に書いても構いません。体裁よく収めてください。用具も自由です。

幼年／小二年
玉樹小
華書





小三、小五年

水野香竹書

中二・三
選挙

小六・中二・三年

奥村暢之書

小六
資格

点を続けて一本に
資格乗馬
選挙

中一
乗馬